

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針

和歌山ブロック協議会 会長 松岡 奨

<p><b>ブロック協議会 理想の未来</b></p>	<p>一人ひとりが輝き 地域と共に誇れる未来を描く和歌山の創造</p> <p>和歌山県では、人口減少及び少子高齢化、南海トラフ地震など、地域の未来や安心を脅かす課題が残されています。これらの課題は複雑化し、市民、企業、行政など単独のセクターのみで解決できるものではなく、様々な人たちが力を合わせて知恵を出し合い、地域全体の結束力を高めてこそ、解決の道が開かれます。和歌山ブロック協議会は、県内各 LOM と多様なセクターをつなぐハブとなり、各 LOM の価値向上を支援することで地域力を強化します。その結果として、県下 8LOM の青年経済人が力を発揮し、地域と共に輝く運動を展開することにより実現される、誇れる和歌山の未来を創造します。</p>
<p><b>ブロック協議会の 役割</b></p>	<p>和歌山ではメンバー数 20 名以下の LOM が半数以上を占めており、防災関連事業など、必要性は高いが LOM 単体での実施が困難な事業があります。そのため、LOM 単体での実施が困難な事業及び広域的に取り組むことが有用なアカデミー事業など、ブロック協議会にしかできない運動を行う必要があります。</p>
<p><b>ブロック連携事業 (政策手法)</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究</li> </ol> <p>本会の地域共創会議と連携し、外部の視点を取り入れる形で、要支援 LOM とする新宮 JC の活動地域の魅力を発掘、発信します。これにより、本会が持つ最適化された事例を LOM へと共有し、ブロック協議会が伴走支援を行うことで、LOM が自走できる環境を見出します。この取り組みを通じて、新宮 JC メンバーが、JC は地域を変えることができるという可能性を感じ、地域や周囲が魅力を感じる JC を目指すことで、会員拡大、会員開発、地域開発を同時に実現していきます。そして、この成果を地域共創会議と連携して、他の要支援 LOM に展開していくことができる形で全体最適化していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究</li> </ol> <p>JC の活動範囲をいかし、他の地域で活動する行政や各種団体、さらには学生など多種多様なパートナーシップの構築を推進することで、多角的な視点によるその地域に眠る資源や魅力の発掘と、さらには経済活動として利益を生み出しつつ環境保全にも貢献する好循環モデルを創りだします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共通の価値観を基に運動を加速させる各種プログラムの実施・支援</li> </ol> <p>和歌山県内各 LOM が地域における課題を的確に捉え、それぞれの運動をより効果的に展開するために JC プログラムを活用した支援を行います。JCI Impact をブロック内全メンバー対象に実施し、JC メンバーとして行うべき運動構築や地域社会のニーズを特定するスキルを学ぶ機会を提供し、各 LOM で実行できるフェーズまでフォローアップすることで、各 LOM の持続的な運動の発展に寄与します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用</li> </ol> <p>年当初にインプットとして JC プログラムである VMV、JCI Achieve などを、その後は地域の課題を発掘し、検証と解決策の提示までを体験するようなアカデミー事業の実施、そしてアカデミーメンバー同士の交流機会の創出などを行います。これにより、同じカリキュラムを受講したメンバーの知識が一定化され、県内のアカデミーメンバーの成長に寄与することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理念共感拡大グランドデザインの検証</li> </ol> <p>和歌山ブロック協議会がどの位置にいるのかの検証として、第一回全国一斉理念浸透サーベイの回答結果を分析いたします。そして、分析結果を基に、浸透率が低い LOM に対し、セミナー等を行うことを通じて、理念共感拡大の意識浸透を目指します。当取り組みの検証として、全ての事業実施後、第二回理念浸透サーベイを実施し、効果の検証と 2025 年度理念共感拡大グランドデザインの目標値に対する達成度を評価いたします。</p>

<b>ブロック協議会 独自の事業</b>	<b>1.アカデミーメンバーの育成における事業の実施</b>
	<b>【背景】</b> 近年、LOMにおけるアカデミーメンバー率の増加や、予算の減少、メンバー数の減少による事業の実施回数減少などを理由に、個々のメンバーが成長するための十分な機会をLOMが提供できていない状況が生じています。ブロック協議会という組織のスケールメリットを活用し、限られた予算や時間の中でより効率的にアカデミーメンバーが成長する仕組みを提供し、LOMの環境に関わらず、メンバーの資質が向上する機会を提供する必要があります。
	<b>【目的】</b> アカデミーメンバーの資質が向上し、各LOMの未来を担う人財となることを目指します。
	<b>【手法】</b> 各LOMのアカデミーメンバーの割合としては、有田JCが35%、伊都JCが48%、海南JCが33%、御坊JCが41%、白浜・田辺JCが65%、新宮JCが50%、那賀JCが47%、和歌山JCが27%となっており、平均して43.2%がアカデミーメンバーとなっています。各LOMの共通の課題としてアカデミーメンバーの育成が挙げられており、ブロック協議会としても重要な課題であると言えます。まずは新設する連絡調整会議を予定者段階から実施し、各LOMの課題に合わせた事業を8月までに2回実施します。事業構築は各LOMのアカデミーメンバーを中心として、ブロック協議会が支援をする形で行います。経験のあるメンバーがアカデミーメンバーと共同で事業構築の手法を学び、細かなフォローアップと協議会のスケールメリットをいかした大きな視点での事業構築の機会を提供することで、各LOMの未来を担う人財の育成に寄与します。
	<b>2.防災意識を高めるための事業の実施</b>
<b>【背景】</b> 和歌山県では近い将来に南海トラフ地震が高い確率で発生すると予測されており、対策の必要性は高いが、LOM単体での実施が困難な事業として防災事業があります。そのため、LOMの垣根を越えた事業構築が可能なブロック協議会が中心となり、発災時の支援体制の構築や全メンバーの防災意識の向上を図る必要があります。	
<b>【目的】</b> 近い将来に起こるとされている南海トラフ地震に備え、和歌山県下全メンバーの防災意識を高め、発災時の迅速な支援体制を構築することを目的とします。	
<b>【手法】</b> 発災時にスムーズな情報伝達をし、協力体制を築けるよう、和歌山県下の各LOM防災担当者に出席いただく和歌山県防災会議を定期的実施します。また、広域的な被害が想定される南海トラフ地震を想定し、太平洋沿岸のブロック協議会による、広域防災会議の検討、調整をいたします。和歌山県防災会議においては、2024年度に策定した和歌山ブロック協議会の防災マニュアルを検証、改訂を進めるとともに、発災時における連絡体制、必要となる人的支援や支援物資の検討などを行います。さらに、和歌山ブロック大会において防災フォーラムを実施し、メンバー全員の防災に対する意識を向上させることで、LOMの垣根を越えた協力体制を築きます。	
<b>3. 和歌山ブロック連絡調整会議の新設</b>	
<b>【背景】</b> 近年では会員減少に端を発したLOMの組織的課題が顕在化し、運動の推進力が低下しています。またLOMの現状と課題、要望は日々変化しており、本会との連携をより強固にしなければなりません。LOMの課題のみならず、思い描く運動の最大化を支援する情報を提供すると同時に、密なコミュニケーションを継続し、共に成長できる関係を構築することが必要です。	

	<p><b>【目的】</b> 日本JC 及び地区協議会の情報を和歌山県下8LOMへ速やかに共有することに加え、各LOMの情報や意見を集約できる双方向の意見交換の場を設け、日本JC、地区協議会、各LOMの運動がより効果を生み出すための連携強化を図り、成長に繋がる支援に向けた情報共有の機会を創出します。</p> <p><b>【手法】</b> 日本 JC 及び地区協議会の情報を和歌山県下 8LOM へ速やかに共有することに加え、各 LOM の情報や意見を集約できる双方向の意見交換の場として連絡調整会議を設け、毎月開催することで、LOM にとって必要な連絡調整機関としての役割を果たします。</p>
	<p>4. 和歌山ブロック大会有田大会の実施</p> <p><b>【背景】</b> 和歌山ブロック協議会における最大の運動の発信の機会であり、メンバーの成長の機会と地域活性化をもたらす和歌山ブロック大会ですが、県内において認知度は高くなく周知浸透していく必要があります。</p> <p><b>【目的】</b> 地域における循環をよりよくすることを目的とします。また主管LOMとブロック協議会が協力し全メンバーで創り上げ、地域と共に誇れる未来を描く和歌山の創造を目的とします。</p> <p><b>【手法】</b> 地域と共に誇れる未来を創造するためには、最大の運動の発信の機会であるブロック大会を地域へ浸透していく必要があります。有田地域の魅力を発信し、地域での交流の機会や新しい地域の未来の姿を示すことができるブロック大会有田大会を実施することで、一人ひとりが輝き地域と共に誇れる未来を描く機会を提供します。また主管LOMとブロック協議会の協力のもと、スケールメリットをいかしたフォーラムを開催し、JCメンバー以外にも参加いただく仕組みを設けることで、和歌山ブロック協議会の運動及び有田地域の魅力を対外に向けても発信します。</p>
<p><b>ブロックによる LOM 支援の 実施内容</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.アカデミー育成事業を実施することで、今後の各 LOM の未来を担う人財を育成します。</li> <li>2.連絡調整会議として各 LOM との意見交換の場を設けることで LOM にとって必要な情報を提供します。</li> <li>3.要支援 LOM に対して和歌山ブロックの役員を派遣し、拡大意識の向上と関係性の構築を行います。</li> </ol>